



卒業式 2017年 3月 5日

学校法人高知学園  
高知リハビリテーション学院

# 学 院 報

学院報第25号

学校法人 高知学園  
高知リハビリテーション学院

平成29年 4月 1日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102  
高知県土佐市高岡町乙1139-3  
Tel 088-850-2311  
Fax 088-850-2323  
http://www.kochi-reha.ac.jp/  
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション  
学院への抱負⑭

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄の

ことと拝察いたします。また平素は学院の  
教育・運営に関しまして、暖かいご支援  
ご協力を賜り誠に有り難うございます。  
保護者の皆様にも少しでも学院のことを知っ  
ていただくよう始めました学院報も第二十  
五号の発刊を迎えることになりました。

平成二十八年度 高知リハビリテー  
ション学院の卒業式が三月五日、吉良  
正人(学校法人高知学園理事長) 理事長  
出席のもと、土佐市市長 板原 啓文様  
をはじめ日頃より本学院に深いご理解と  
お力添えを賜っております関係各位の団  
体や施設から多くの皆様方のご臨席を賜  
り、理学療法学科 第四十六期生六十三  
名、作業療法学科 第二十一期生三十五  
名、言語療法学科 第十七期生三十二名、  
合計百三十名の皆さんを送り出すことが  
できましたことを大変うれしく思いま  
す。また卒業生の皆さんをこれまで見守り  
支えてこられました保護者の皆様にも教  
職員一同心よりお祝いを申しあげます。

卒業生の告辞で述べましたように卒業  
生の皆さんは日々の授業や臨床実習、卒  
業研究を通してそれぞれの専門領域の専  
門力を学ぶとともに、クラブ活動や学院  
祭、ボランティア活動など様々な体験を  
通して心豊かな人間性を高めてまいりま  
した。

しかし、皆さんが本学院で学んだこと  
は、それぞれの専門性の基本を学んだに  
すぎません。医療・保健・福祉の分野は  
日進月歩の世界です。これまでに得た知  
識、技術のみで対応できるものではあり  
ません。卒業は終わりではなく、新たな  
始まりを意味しております。これから  
生涯学びが続くことを肝に銘じ、さらな  
る研鑽によって多くの知識、技術を習得  
し、皆さんの支援を必要とされている  
方々が、その人らしい生活や人生を取り  
戻すための支援を行う専門職(プロ)と  
して、利用者を取り巻く様々な課題に対  
して真正面から取り組む姿勢を大切に歩  
んでいって下さい。これからが実践の学  
びであります。そして、卒業生の皆さん  
が、社会で活躍され学んだ成果を是非本  
学院に還元し、後輩の教育・指導にも力  
を貸して戴くようにとお願いをいたしま  
した。そして卒業生の皆さんが医療・保  
健・福祉分野の発展の一翼を担い、これ  
からの地域社会の発展のために貢献する  
セラピストになって戴きたいと思えます。

平成二十九年度も創立五十周年に向け  
て取り組んでいる教育環境の整備事業を  
更に積極的に進めていきたいと考えてお  
ります。どうか今後ともご支援、ご協力  
をよろしくお願いいたします。

## 人間総合科学大学 卒業報告

人間総合科学大学指導連絡会 委員長 中野 良哉

平成28年度高知リハビリテーション学院卒業生のうち、16名が人間総合科学大学人間科学部人間科学科を平成29年3月5日に卒業しました。高知リハビリテーション学院では、昭和62年度から併修制度を取り入れました。併修制度とは、本学院で学ぶと同時に大学で学び、学士の資格を取得する制度です。平成12年度からは人間総合科学大学と併修提携を結びました。併修生の数によって、あるいは年度によって変動しますが、現在は約1割から2割程度の学生が、この併修制度を利用し、リハビリテーション分野の近接領域である「こころ」「からだ」「文化」の3つの領域を中心に学んでいます。

学士の資格を取得された卒業生は、4年間にわたり学院と併修大学の学業を両立させ、最後まで学びの姿勢を崩さなかったといえます。このような姿勢を医療の場においても十分に発揮し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士としてご活躍されることを期待しております。

## 平成28年度卒業生 特別表彰者

### ○職業教育・キャリア教育財団 表彰者

理学療法学科 吉松 廉  
言語療法学科 川渕 莉奈  
作業療法学科 西森 溪二

### ○全国リハビリテーション学校協会 優秀賞

作業療法学科 沖 奈津美  
理学療法学科 谷口 京成  
言語療法学科 佐野 由佳

### ○日本理学療法士協会 優秀賞

岡部 友紀

### ○日本作業療法士協会 優秀賞

竹村 すみれ

### ○日本言語聴覚士協会 協会会長表彰

東宅 悠乃介

### ○学院長表彰

言語療法学科 上杉 生豊  
作業療法学科 田中 僚  
理学療法学科 飯尾 一仁 森田 修平

# 卒業研究発表会

### 言語療法学科 補導主任

土居 奈央

今年度卒業研究発表会は、実習を目前に控えた四月に行われました。三年次生より開始した研究でしたが、日々の勉強に加え、自ら研究題材を探し、計画を立て、実施することはとても大変だったと思います。しかしそれらは、情報収集・訓練計画立案・訓練実施と、今後行う言語聴覚療法に繋がる点が多々あるのでは

ないかと思えます。数年前までは三学科合同で行っていましたが、現在は学科内で実施しています。それに伴い参加人数が減るため緊張感は弱まるかもしれませんが、一方でより深い議論が交わされた様に感じました。

最後になりましたが、ご指導をくださいました先生方、またお忙しい中、参加して頂いた先生方、本当にありがとうございました。

### 作業療法学科 補導主任

笹村 聡

今年度も、作業療法における勉学の集大成として、卒業研究及び研究発表を終えることができました。各自の学生発想と行動により、卒業論文を仕上げ、素晴らしい発表であったと感じます。それもひとえに各教員の丁寧な指導のおかげであることは言うまでもありません。こ

の場を借りて、お礼申し上げます。

臨床経験もなく、形の無い疑問とまだ少ない知識の中から、一つずつ文献を紐解き、何を明らかにすべきか実証していく卒業論文の過程は、研究活動の基盤であり、必ず今後、作業療法に従事していく専門職の業務に役立つものです。今後も、卒業生が絶えず努力と実践を継続していくことを願います。

### 理学療法学科 補導主任

清岡 学

四年間の集大成のひとつである、理学療法学科四十六期生の卒業研究の発表も終え、論文集が完成しました。卒業式の当日に論文集が卒業生ひとりひとりに手渡され、感慨深いものがありました。学生にとっては三年次からのデータ収集から統計処理、そして発表原稿から本原

稿の作成と、臨床実習や国家試験の勉強と同時進行で大変であったと思います。臨床においても研究は理学療法の進歩には欠かせないものであり、今回の経験は貴重であります。特に統計処理に苦労していたようですが、研究の信頼性・妥当性を求めるには必須の作業であることが理解できたのではないのでしょうか。この経験を活かし臨床現場で活躍されることを期待しております。

# 学生生活を振り返って



言語療法学科

細川 知穂

この学院での生活を振り返ってみると、大変なことたくさんありましたが、それ以上に楽しく、あつという間の四年間でした。臨床実習では初めてのことで戸惑うことが多く、辛いと思うこともありましたが、同時に言語聴覚士という仕事の重大さを知ることが出来ました。また、患者様と実際に接し初めて感謝の言葉を頂いた時には、とても嬉しく、この仕事のやりがいと楽しさ



作業療法学科

道倉 健太

振り返ってみれば学生生活は充実し、気付けばあつという間の四年間でした。学生生活ではスポーツ大会や学院祭など楽しかった思い出だけではなく、国家試験や実習など大変な時期もありました。しかし、その度にクラスメートと助け合い、励まし合いながら乗り越えてくることが出来ました。みんな明るく、どんなことでも相談出来て、元気をくれるクラスメートは僕の自慢です。また、



理学療法学科

岡部 友紀

この四年間、本当にたくさん思い出ができ、そしてたくさんのかげがえのない思い出がありました。一年次のよさこい祭りでは、臍脂色の衣装を纏いみんなで一丸となって踊り切りました。夜の高ぶる熱気は今でも忘れられません。学院祭ではみんなで創りあげた劇やダンスは勿論、準備や打ち上げも楽しみのひとつでした。様々な行事を通して、意見がまとまらずぶつかることもありましたが、仲間とともに一つのことを成し遂げた後の達成感と喜びは、それまで以上に私たちの絆を

を感じる事ができました。国家試験に向けての勉強では、友達同士で教え合うことで、考え方や知識の幅を広げることが出来ました。勉強自体は大変でしたが、毎日友達と勉強した時間はとても充実していました。春からそれぞれ新しいスタートとなります。今まで以上に大変なことばかりだと思いますが、この学院での経験、出会いを大切にして、精進していきたいと思えます。ご指導して頂いた先生方、四年間応援してくれた両親に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

その中で自分自身も大きく変わることが出来ました。元々人前で話すのは苦手な緊張してしまい、上手く言いたいことを相手に伝えられなかったのですが、総務の仕事や入学式の挨拶等、人前で話す機会をたくさん頂き、少しずつ自信を持つことが出来ました。経験を積むたびに、落ち着いて話すことが出来るようになり、変わるきっかけを作ってくれた先生方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。春からは作業療法士として働き始めますが、ここで学んだ事を忘れず頑張りたいと思います。

深めるきっかけとなりました。友人と他愛のない話で笑い合っ過ぎて過ぎた日々も、怒られたり悩んだり落ち込んだりした日々も、そして四年生の集大成である国家試験へ向け、仲間と共に励まし合いながら、努力を重ねた日々も、すべてが一生における宝物です。仲間や先生方、家族、そして出会えたすべての人に、本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。私たちは、この高知リハビリテーション学院の卒業生であることを誇りとして、先生方から教えて頂いたことを胸に、人として、また、セラピストとして、たくさんの人に笑顔を与えられるような存在になりたいと思います。

## 就職ガイダンスの報告及び就職状況

就職指導委員会 委員長 平賀 康嗣

臨床実習を終えた四年次生は、十月から十二月を中心に国家試験勉強に取り組み中、就職合同説明会への参加、就職マナー講習、病院訪問、履歴書の作成等、就職活動に励みます。

平成二十八年度就職合同説明会では七十四施設百五十名と多くの採用担当者にご参加いただき、熱気あふれる就職説明会となりました。当日は、講堂と食堂、就職情報指導室、事務室前に分かれブース形式にて行い、学生達は事業内容等説明を受け、具体的な雇用条件や職場環境などについて真剣に聴き入っていました。また、県内外の採用担当者の方からも楽しく、わかりやすく説明していただき、会場では真剣な中にも和やかな雰囲気が漂い、これから就職先を考える学生にとって、今後の活動の第一歩となる良い機会となりました。

就職先は下記のとおりです。

- 田野病院・JA高知病院・いずみの病院・高知病院・(独)地域医療機能推進機構 高知西病院・南国中央病院・南国厚生病院・白菊園病院・清和病院・くぼかわ病院・竹本病院・森下病院・筒井病院・大井田病院・JR東京総合病院・原宿リハビリテーション病院・永寿総合病院 柳橋分院・緑成会病院・道後温泉病院・福角病院・西条中央病院 他多数

# ))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科  
光内 梨佐

私は今年で本学院を卒業してから十四年目、本学院に入職してから十一年目を迎えます。言語聴覚士になつてからずっと「聴覚的把持力(耳から聞いた情報

をどれだけ覚えていられるかという能力)」に興味があります。この能力に問題が起きると「明日は赤鉛筆と青鉛筆を持ってきてください」と聞いたとしても、頭の中に「赤鉛筆」しか残っておらず、「青鉛筆」を忘れてしまうなどの問題が起こります。しかし、聴覚的把持力に問題が生じていな

くても、会話に集中してないと会話の内容を覚えていないことがあります。そこで今年度は授業に興味を持って聴いてくれているか、伝えたいことが伝わっているのかなど「聞く」が「聴く」となっているのかを心がけながら、学生と共に頑張っていきたいと思



作業療法学科  
西野 愛

私は、当学院作業療法学科七期生として卒業しました。その後精神科の病院にて七年間臨床経験を積み、本学院に教員として入職し

て七年が過ぎようとしています。担当科目は二年次生での精神医学や精神障害評価学、三年次生での精神障害治療学や精神障害各論を受け持っています。精神分野が専門ということもあり、日頃より人の気持ちに寄り添うことができる作業療法を支援できるように

日々考えながら授業を行っております。今春より、今年度入学の二十五期生の補導主任を任されることとなりました。新入生の学生達と共に学院生活が充実した日々となり成長できるように一生懸命一杯努めさせていただきたいと考えております。



理学療法学科  
清岡 学

高知リハビリテーション学院 理学療法学科 五十年生になられる皆様、皆様はこれから理学療法士として身体的に障がいを負った

人々の家庭生活や社会活動への復帰に向けた支援を行う医療専門職への道を歩み始めます。これから始まる四年間の学習は医学・健康・福祉など多くの分野の知識を身に付けることになりま

す。入学生全員で国家試験を突破して頂けるよう、私どももできる限りの後押しをしてゆきたいと考えておりますので、一緒に乗り切つてゆきましょう。

## 地域貢献

火渡り川清掃ボランティア  
作業療法学科1年 中平 黎音

私は、二月二十六日に火渡川の清掃ボランティアに参加しました。しかし、想像していたよりもゴミは落ちておらず、土佐市は綺麗な町だなと感じました。この清掃を通して、普段何気なく通っている道も、地域の方々の力で綺麗に保たれているのだと気付きました。これからは、土佐市が更に綺麗な町になるように、私も貢献していきたいと思



## クラブ紹介

### 平成28年度 クラブ一覧表



ツーリング部

第5回四万十・足摺無限大チャレンジライド  
2017年3月11日四万十ロングコース156.5km  
完走です。

クラブ名	
1	野球部
2	フットサル部
3	バレーボール部
4	バスケットボール部
5	ソフトボール部
6	バドミントン部
7	剣道部
8	吹奏楽部
9	軽音楽部
10	ソフトテニス部
11	ダンス部
12	スケートボード部
13	ツーリング部
14	柔道同好会
15	ハンドボール同好会

## 作業療法学科実習室

作業療法学科長 平松真奈美

作業療法学科実習室の設備がリニューアルされました。これまでの模擬住宅コーナーに最新型の住宅設備とリハビリテーション機器を導入し、個々の状況に合わせたリハビリテーション技術を、幅広く学習できるようにしました。住宅設備では、居室・トイレ・洗面・浴室・キッチンなど車椅子対応ができるようにして、キッチンと浴室は細かく設定を変更できるものも配置しています。また、視線や呼気を使って操作できるコンピューターを搭載した環境制御装置や視線入力型意思伝達装置、シミュレーション画面を使って操作を行う自動車運転能力評価装置、職業適性検査、3次元動作解析装置などがあります。四国初導入の機器もありますので、卒業生の皆さんも是非活用してください。



## 高知リハビリテーション学院は 高知医療センターと包括的連携に関する協定書に調印

高知学園短期大学及び高知リハビリテーション学院と高知医療センターとの間で医療・健康・福祉・栄養分野における知的・人的資源の交流連携を推進し、相互の教育・研究の一層の進展と地域社会の発展に資することを目的に2月21日に、包括的な連携に関する協定を締結しました。高知医療センターであった調印式には、古味勉企業長や吉川清志病院長、小島一久学長、大倉三洋学院長ら14名が出席しました。

また、包括的連携事業の第1弾として、高知リハビリテーション学院講師 重島晃史先生による「医療統計超入門」が3月23日に高知医療センターくろしおホールにて開催されました。



全国で活躍する卒業生シリーズ②④



『一国一城の主』

株式会社 Life change 忠さんのデイサービス  
作業療法学科 第3期生 細川 忠

一九九九年、ノストラダムスの大予言によれば地球が滅亡するという年に高知リハビリテーション学院を卒業し、近森リハビリテーション病院に入職することになりました。その頃は、回復期病棟などなく単位を簡単、複雑で取っている時代でした。簡単は、個別。複雑は、集団です。院内の取り組みとして日曜日には、複雑という単位の取り方を利用して入院患者を三人ほど連れて日曜市に買い物に行くことや作業療法士がギターを弾きデイルームにてコンサートやレクリエーションなどを開く機会が多くありました。集団での楽しさは笑顔の引き出し方や患者間の会話や話題の引き出し方などをそこで学んだようにも思います。その後、回復期病棟により個別リハビリテーションが中心となり集団による活動がなくなってしまう、徒手的な治療が主流になってきました。その後、近森病院で急性期病棟を十年経験させていただき基本的な疾患の基礎知識や救急場面での対応など勉強させていただきました。そして、あのノストラダムスの予言が外れてから十六年後、株式会社Life changeを企業しデイサービスを立ち上げることになりました。なぜ、設立したか、それは新人の時の思いが少しあったのだと思います。患者さんは、例えば脳梗塞を発症し急性期病院から回復期病院を経由し在宅に帰っていきま。それは当然なのですが、その先に楽しみを提供しながら回復の手助けができるサービスがあるかどうか疑問に思いました。地域のスタッフには優秀な方はたくさんいます。しかし、そこに患者さんや利用者さんの横のつながりはあるのか？また、家族や友人と日曜日などに行きたいなどの希望を叶えることができる施設があるか？と思い新人で右も左も解らない時に経験した事を思い出し地域に出ることを決心しました。

現在、当デイサービスではパワーリハビリや物理療法などの機械は入れず、作業療法士、理学療法士二名のリハビリスタッフと他七名のスタッフに支えられ三年目に突入しています。実際、集団でのリハビリは、作業療法士や理学療法士は参加できないものの他のスタッフがうまく立ち回り利用者さんたちの横のつながりができるよう工夫をして行っています。『夢のみずうみ村』などの完成されたものにつづくのではなく、自分のできる小さいことでも気が付けるような家庭的なデイサービスを目指しています。小さいながらも一城の主であり仲間と利用者さんたちとこの城を育て高知城に負けない天守閣を作ってやろうと思っています。

平成29年度 前期行事予定

- 4月6・7日 オリエンテーション  
健康診断
- 8日 入学式
- 10日 前期授業開始
- 28日 レクリエーション
- 8月1～8日 前期定期試験
- 8月9日～9月15日 夏期休業
- 8月10・11日 よさこい祭参加
- 8月19日 土佐市大綱祭り参加

土佐市就学奨励費について

土佐市在住(土佐市の賃貸宿舎の居住者も含みます)の学生に対して、前期・後期それぞれ3万円の就学奨励費が交付されます。説明会(6月予定)を開きますので、該当する学生は忘れずに出席してください。

スクールバスの運行について

授業開始(終了)時間に合わせて、JRいの駅 天王ニュータウン 学院間を1日6往復運行(無料)しています。いの駅発の第1便は8時10分です。運行ダイヤは学内の各階掲示板やホームページに掲載しています。学院祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。尚、路線バス(いの駅から学院西入り口間を運行している土佐市ドラゴンバス)も運行しており、運賃も学院負担となっております。詳しくは学院事務局まで。

